(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11)特許出願公表番号

特表平10-500863

(43)公表日 平成10年(1998)1月27日

(51) Int.Cl. ⁶ C 1 2 N 15/09 9/56	識別記号 ZNA	庁内整理番号 9282-4B 9152-4B	F I C 1 2 N	15/00 9/56	ZNAA	
// (C 1 2 N 15/09 C 1 2 R 1:10)	ZNA					

審査請求 未請求 予備審査請求 有 (全25頁)

特顯平8-500873	(71)出願人	ノース・キャロライナ・ステイト・ユニヴ
平成7年(1995)5月5日		ァーシティ
平成8年(1996)11月27日		アメリカ合衆国、27695-7003 ノース・
PCT/US95/05635	du .	キャロライナ、ローリー、ホラデイ・ホー
WO95/33056	Ì	ル 103、キャンパス・ポックス 7003
平成7年(1995)12月7日	(72)発明者	シー、ジェイソン・シー・エイチ
250, 028		アメリカ合衆国、27511 ノース・キャロ
1994年 5 月27日		ライナ、ケアリー、プランターズ・ウッ
米国(US)		ド・レイン 100
	(74)代理人	弁理士 奥山 尚男 (外3名)
	平成7年(1995)5月5日 平成8年(1996)11月27日 PCT/US95/05635 WO95/33056 平成7年(1995)12月7日 250,028 1994年5月27日	平成7年(1995) 5月5日 平成8年(1996)11月27日 PCT/US95/05635 WO95/33056 平成7年(1995)12月7日 (72)発明者 250,028 1994年5月27日 米国(US)

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 パチルス・リチェニフォルミス(Bacillus Licheniformis) PWD-1 のケラチナーゼをコードしているDNA

(57)【要約】

ケラチナーゼをコードしている単離DNAが開示されている。単離DNAは、(a) 図1のパチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniformis) PWD-1のケラチナーゼ酵素をコードしている単離DNAと、(b) 上記 (a) のDNAとハイブリッド形成し、パチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniformis) NCIB 6816のズブチリシンカールスペルグセリンプロテアーゼとハイブリッド形成しないオリゴヌクレオチドプロープとハイブリッド形成する単離DNAと、および (c) 遺伝子コードの縮重によりヌクレオチド配列が上記 (a) および (b) の単離DNAと異なり、かつケラチナーゼ酵素をコードしている単離DNAとのうちのいずれかである。

FIG. 1A

【特許請求の範囲】

- 1. (a) 図1のバチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniformis) P WD-1のケラチナーゼ酵素をコードしている単離DNAと、
- (b) 上記 (a) のDNAと同じハイブリッド形成条件でハイブリッド形成するが、バチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniformis) NCIB 6816の「ズブチリシンカールスベルグセリンプロテアーゼをコードするDNAと同じハイブリッド形成条件でハイブリッド形成しないオリゴヌクレオチドプローブとハイブリッド形成する単離DNAと、
- (c) 遺伝子コードの縮重によりヌクレオチド配列が上記 (a) および (b) の単離DNAと異なり、かつケラチナーゼ酵素をコードしている単離DNAとから成るグループから選択されるケラチナーゼをコードしている単離DNA。
- 2. 図1のバチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniformis) PWD-1 のケラチナーゼ酵素をコードしている請求項1記載の単離DNA。
 - 3. 図1のDNA配列を持つ請求項1記載の単離DNA。
- 4. ベクターDNAと、ケラチナーゼ酵素をコードしている上記請求項1の単離DNAとを含む組換えDNA分子。
- 5. 請求項4記載の組換えDNAを含み、コードされているタンパク質を発現できる宿主細胞。
- 6. コードされているケラチナーゼを発現させることが可能な条件下で請求項 5 記載の宿主細胞を培養して細胞培養物を得る工程と、上記細胞培養物から上記 ケラチナーゼ酵素を収集する工程とを含むケラチナーゼ酵素の製造方法。
- 7. (a) 図1のバチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniformis) P WD-1のケラチナーゼをコードしている単離DNAと、
 - (b) 60℃で0.3MのNaC7、0.03Mのクエン酸ナトリウム、0.1%のSDSの洗浄

の厳密さによって表される条件で、上記 (a) の単離 DNAとハイブリッド形成し、上記 (a) の単離 DNAと少なくとも65%が相同であり、かつケラチナーゼ酵素をコードしている単離 DNAと、

(C) 遺伝子コードの縮重によりヌクレオチド配列が上記 (a) および (b)

-)の単離DNAと異なり、かつケラチナーゼ酵素をコード化ている単離DNAとから成るグループから選択されるケラチナーゼをコードしている単離DNA。
- 8. ベクターDNAと、ケラチナーゼ酵素をコードしている上記請求項7記載の 単離DNAを含む組換えDNA分子。
- 9. 請求項8記載の組換えDNAを含み、コードされているタンパク質を発現できる宿主細胞。
- 10. コードされているケラチナーゼを発現させることが可能な条件下で請求項9記載の宿主細胞を培養して細胞培養物を得る工程と、上記細胞培養物から上記ケラチナーゼ酵素を収集する工程とを含むケラチナーゼ酵素の製造方法。

【発明の詳細な説明】

バチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniformis) PWD-1のケラチナーゼをコードしているDNA

本発明は、USDA (米国農務省) からの補助金による政府援助を受けた。政府は本発明に対し特定の権利を有する。

技術分野

本発明は、バチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniformis) PWD-1 のケラチナーゼをコードしている DNAに関し、羽毛等のケラチンを分解し、それからアミノ酸を生成するのに有効なケラチナーゼの製造に役立つものである。

発明の背景

羽毛は、家禽産業によって大量に生産される。これらの羽毛は、利用範囲の広い原材料の安価な供給源である。数ある中で、動物飼料のアミノ酸と消化性タンパク質の安価な供給源として利用できるように、羽毛の分解方法の開発に大きな関心が寄せられてきた。現在までに開発されている羽毛を動物飼料に変換する方法には、蒸気による加水分解処理法と蒸気による加水分解処理と酵素処理を組み合わせた方法がある。Papadopoulos,M.C.,Animal Feed Science and Technology 16:151 (1986) 、Papadopoulos,M.C.,Poultry Science 64:1729 (1985) 、Alderibigde,A.O. et al.,J. Animal Science 1198 (1983) 、Thomas and Beeson,J.Animal Science 45:819 (1977) 、Morris et al.,Poultry Science 52:858 (1973) 、Moran et al.,Poultry Science 46:456 (1967) 、Davis et al.,Processing of poultry by-products and their utilization in feeds,Part I,USDA Util、Res、Rep. no.3,Washington,D.C. (1961) 参照のこと。これらの方法には、蒸気処理により熱に弱いアミノ酸が分解されたり、生成物の

消化性が比較的低い等の欠点があったことから、過酷な蒸気処理を必要としない 経済的で新しい羽毛分解法に対する関心は薄れなかった。従って、本発明の目的 は、蒸気加水分解に依存しないケラチンに富む材料の加水分解法を提供すること である。

更なる目的は、ケラチンに富む材料を高いアミノ酸収率でアミノ酸に変換する

方法を提供することである。

本発明の更なる目的は、消化性が高く、食物タンパク質およびアミノ酸の良質な供給源となる飼料成分として有用な羽毛の加水分解生成物を提供することである。

本発明の更なる目的は、飼料中のケラチンとその他のタンパク質の消化性を改善するための飼料添加物として利用可能なケラチナーゼ酵素を提供することである。

本発明の更なる目的は、食物アミノ酸源として羽毛の加水分解生成物を利用した経済的な動物飼料を提供することである。本発明の前記およびその他の目的と本発明の点は下記の概要、詳細な説明、例に詳細に説明されている。

発明の概要

本発明の第一の点は、

- (a) 図1 (配列番号1) のバチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Lichen iformis) PWD-1 (ATCC Accession No. 53757) のケラチナーゼをコードしている 単離DNAと、
- (b) 60℃で0.3MのNaC7、0.03Mのクェン酸ナトリウム、<math>0.1%のSDSの洗浄の厳密さによって表される条件で、上記(a)の単離DNAとハイブリッド形成し、上記(a)の単離DNAと少なくとも65%が相同であり、かつケラチナーゼ酵素をコードしている単離DNAと、
- (c) 上記 (a) のDNAと同じハイブリッド形成条件でハイブリッド形成するが

バチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniformis) NCIB 6816のズブチリシンカールスベルグセリンプロテアーゼ (バチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniformis) PWD-1の前記プロテアーゼはその変異型に思われる)をコードするDNAと同じハイブリッド形成条件でハイブリッド形成しないオリゴヌクレオチドプローブとハイブリッド形成する単離DNAと、

(d) 遺伝子コードの縮重によりヌクレオチド配列が上記 (a) および (b) の 単離DNAと異なり、かつケラチナーゼ酵素をコードしている単離DNAと から成るグループから選択されるケラチナーゼをコードしている単離DNAである。

本発明の第二の点は、ベクターDNAとケラチナーゼ酵素をコードしている上記に示すDNAを含む組換えDNA分子である。

本発明の第三の点は、上記の組換えDNA配列を含み、コードされたケラチナー ゼ酵素を発現できる宿主細胞である。

本発明の第四の点は、コードされたケラチナーゼを発現できる条件で上記宿主 細胞を培養し、発現されたケラチナーゼを収集することによるケラチナーゼ酵素 製造方法である。

本発明の前記およびその他の点は、下記の図、具体例、詳細な説明に詳しく説明されている。

図面の簡単な説明

図 1 は、バチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniformis) PWD-1の ケラチナーゼをコードしている単離DNAの配列とコードされているアミノ酸配列 を示す図である。更に、図 1 は、バチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniformis) PWD-1とバチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniformis) NCIB 6816のズブチリシンカールスベルグ遺伝子をコードしているアミノ酸の 違いも示している。

発明の詳細な説明

本明細書に開示されているアミノ酸配列は左から右に、アミノ末端からカルボキシル末端の方向に表示されている。アミノ基とカルボキシル基は配列に表示されていない。ヌクレオチド配列は左から右に5'から3'の方向に一本鎖のみによって本明細書に表示されている。ヌクレオチドとアミノ酸は、37CFR1.822と確立された利用法に準じて、IUPAC-IUB生化学命名委員会によって推奨される方法で、あるいは(アミノ酸に関しては)3文字コードにより表されている。例えば、PatentIn User Manual,99-102(1990年11月)(米国特許商標庁、Office of the Assistant Commissioner for Patents,Washington,D.C. 20231);Hudson et al.の米国特許第4,871,670号、3 欄の $20\sim43$ 行目を参照すること(本明細書に引

用されたこれらの文献は、引用することによって本明細書中に組み込むことを出 願人は意図している)。

A. ケラチナーゼ酵素をコードしているDNA

DNAは、羽毛のようなケラチン供給源を分解するケラチナーゼ酵素をコードしている。この定義は、このDNAの天然の対立遺伝子の変異を含むことを意図している。ケラチナーゼの発現をコードしているその他のDNA配列と上記DNA配列とのハイブリッド形成が可能なハイブリッド形成条件は、一般に高度に厳密な(stringency)条件である。例えば、このような配列は、60℃または70℃で0.3MのNaCl、0.03Mのクエン酸ナトリウム、0.1%のSDSの洗浄の厳密さによって表される条件で、標準的なin situハイブリッド形成分析において本明細書に開示されているDNAとハイブリッド形成することができる。J. Sambrook et al., Molecular Cloning, A Laboratory Manual(第二版、1989年)(Cold Spring Harbor Laboratory)を参照。一般に、ケラチナーゼをコードしており、かつ本明細書に開示されているバチルス・リチェニフォルミス(Bacillus Licheniformis)PWD-1のケラチナーゼをコードしているDNA配列とハイブリッド形成するDNA配列は、本明細書に開示されているケラチナーゼの配列と少なくとも65%、70%、75%、80%、85%、90%あるい

は95%以上相同である。

更に、前記配列によりコードされているものと同じケラチナーゼをコードしているが、遺伝子コードの縮重によりこれらとはコドン配列が異なるDNA配列(またはオリゴヌクレオチド)も本発明の一面をなす。遺伝子コードの縮重は、異なる核酸配列により同じタンパク質またはペプチドをコードするものであるが、文献にて公知である。例えば、Toole et al. の米国特許第4,757,006号、2欄、表1を参照。

前記配列によりコードされているものと同じケラチナーゼをコードしているが、部位指定変異誘起法によりこれらとはコドン配列が異なるDNA配列(またはオリゴヌクレオチド)も本発明の更なる一面をなす。ケラチナーゼ酵素の特性の改善に有用な部位指定突然変異誘起法は、下記に説明されているように公知である

。Kunkelの米国特許第4,873,192号を参照。

B. 遺伝子工学技術

遺伝子工学によるクローン化遺伝子、組換えDNA、ベクター、形質転換宿主細胞、タンパク質およびタンパク質断片の作製法は公知である。Bell et al. の米国特許第4,761,371号の6欄3行目から9欄65行目、Clark et al. の米国特許第4,877,729号の4欄38行目から7欄6行目、Schilling et al. の米国特許第4,877,729号の4欄38行目から7欄6行目、Schilling et al. の米国特許第4,912,038号の3欄26行目から14欄12行目、Wallner et al. の米国特許第4,879,224号の6欄8行目から8欄59行目を参照。

ケラチナーゼをコードしているDNAは公知の技術のいずれによっても作製できる。例えば、このDNAは、BIO-RAD社のMUTA-GENE TM Phagemid in vitro突然変異誘発キットを使用して構成することができる。このキットは、米国特許第4,873,192号においてKunkelにより報告されている方法に基づいている。(T. Kunkel, Proc Natl. Acad. Sci. USA 82:488 (1985)、T. Kunkel et al., Methods in Enzymol. 154:367 (1987) も参照)。米国特許第4,873,192号は、二本鎖DNAの非突然

変異鎖に対する非常に強い選択法を提供する。DNAがdut ung 二重突然変異細菌の中で合成されると、新生DNAはdut突然変異の結果、チミンの位置に多くのウラシルを持ち、それによって酵素dUTPaseを不活化し、細胞内dUTP濃度が高くなる。ung突然変異はウラシル N-グリコシラーゼを不活化し、取り込まれたウラシルはDNAの中に残存できる。次に、このウラシルを含む鎖を、所望の突然変異を含むオリゴヌクレオチドによってプライム(開始)される相補鎖の<u>in vitro</u>合成の鋳型として利用する。得られた二本鎖DNAは能率的なウラシル N-グリコシラーゼを有する細胞内に形質転換され、ウラシルを含む鎖は高い効率で不活化され、ウラシルを含まない残存物質が残り、複製される(一般的な情報はBIO-RADカタログ番号170-3576使用マニュアルを参照)。

ケラチナーゼと調節要素をコードしているDNAを含むケラチナーゼ遺伝子は、 選択された、あるいは標的となる核酸配列の増幅により構成される。増幅は適切 な手段のいずれによっても実施できる。一般的には、D. Kwoh and T. Kwoh, Am . Biotechnol. Lab. 8:14 (1990) を参照。適切な増幅技術の例としては、ポリメラーゼ連鎖反応、リガーゼ連鎖反応、鎖置換増幅(一般的には、G. Walker et al., Proc. Natl. Acad.Sci.USA 89:392 (1992) 、G. Walker et al., Nucleic Acids Res. 20:1691 (1992) 参照)、転写に基づく増幅(D. Kwoh et al., Proc Natl. Acad. Sci. USA 86:1173 (1989) を参照)、自己保持配列複製(または「3SR」)(J.Guatelli et al., Proc. Natl. Acad. Sci. USA 87:1874 (1990) 参照)、Qpレブリカーゼ系(P.Lizardi et al., Biotechnology 6:1197 (1988)参照)、核酸配列に基づく増幅(または「NASBA」)(R. Lewis, Genetic Engineering News 12 9:1 (1992) 参照)、修復連鎖反応(すなわち「RCR」)(上記R. Lewis参照)、およびブーメランDNA増幅(すなわち「BDA」)(上記R. Lewis参照)が含まれるが、これらに限定されない。

前記のようなDNA増幅技術には、目的の標的タンパク質をコードしているDNAに

特異的に結合するプローブ、1対のプローブまたは2対のプローブが含まれる場合がある。

ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) は、公知の技術によって実施できる。例えば、米国特許第4,683,195号、第4,683,202号、第4,800,159号および第4,965,188号を参照。一般に、PCRは、まずハイブリッド形成条件下に、検出すべき特異的配列の各鎖に対するあるオリゴヌクレオチドプライマーを用いて (例えば熱に安定なDNAポリメラーゼの存在下に) 核酸試料を処理すると、各核酸鎖に相補的な各プライマーの伸長生成物が合成される。プライマーはハイブリッド形成する特異的配列に十分に相補的であり、各プライマーから合成される伸長生成物は、その相補体から単離された場合には、もう一方のプライマーの伸長生成物合成の鋳型として利用できる。次に、検出すべき配列が存在する場合には、変性条件で試料を処理し、プライマー伸長生成物をそれらの鋳型から単離する。これらの段階は、目的の増幅量が得られるまで、周期的に反復される。増幅配列の検出は、反応生成物とハイブリッド形成できるオリゴヌクレオチドプローブ (例えば、本発明のオリゴヌクレオチドプローブ) を反応生成物に加えることによって実施でき、そのプローブとしては、検出可能な標識を付けたプローブを用いる。次に公知の技

術によって、あるいはゲル上で直接視認により標識を検出する。

リガーゼ連鎖反応 (LCR) も、公知の技術に従って実施される。例えば、R. We iss, Science 254:1292 (1991) を参照。一般に、反応は2対のオリゴヌクレオチドプロープを用いて実施され、1対は検出されるべき配列の1本の鎖に結合し、もう1対は検出されるべき配列のもう1本の鎖に結合する。各対は共にその対応する鎖に完全に重なる。反応は、まず検出されるべき配列の鎖を変性させ(例えば単離し)、次に熱に安定なリガーゼの存在下に鎖を2対のオリゴヌクレオチドプローブと反応させ、オリゴヌクレオチドプローブの各対を共に結合させる。次に反応生成物を単離し、目的の量まで配列が増幅されるまでこの工程を周期的に

反復する。次に、PCRに関して記述されている方法により検出することができる

ベクターは、複製可能なDNA構成物である。ベクターは、本明細書に示されるケラチナーゼをコードしているDNAを増幅するか、および/または本明細書に示されるケラチナーゼをコードしているDNAを発現するために使用される。発現ベクターは、複製可能なDNA構成物であり、ケラチナーゼをコードしているDNA配列が適切な宿主内でケラチナーゼを発現する適切な調節配列に操作可能なように結合されている。このような調節配列の必要性は、選択される宿主および選択される形質転換法によって異なる。一般に、調節配列には、転写プロモーター、転写を調節する選択されたオペレーター配列、適切なmRNAリボソーム結合部位をコードしている配列、転写および翻訳の終結を調節する配列が含まれる。

増幅ベクターは発現調節領域を必要としない。必要とされるのは、通常は複製 起点によって賦与される宿主内複製能と、形質転換細胞の確認を促進する選択遺 伝子だけである。

ベクターには、プラスミド、ウイルス(例えばアデノウイルス、サイトメガロウイルス)、ファージ、組み込み可能なDNA断片(すなわち、組換えにより宿主ゲノムの中に組み込むことができる断片)が含まれる。ベクターは、宿主ゲノムとは独立に複製され、機能する。あるいは場合によってはゲノムそのものに組み

込まれる。発現ベクターは、発現されるべき遺伝子に操作可能なように結合し、 宿主生物内で操作可能なRNA結合部位とプロモーターとを含まなくてはならない

DNA領域は、機能的に互いに関係がある場合には、操作可能なように結合されるか、あるいは操作可能なように連結される。例えば、プロモーターは、それが配列の転写を調節している場合には、コーディング配列に操作可能なように結合されたり、あるいは、リボソーム結合部位は、それが翻訳できるように配置されている場合には、コーディング配列に操作可能なように結合される。

形質転換宿主細胞は、組換えDNA技術を用いて作製された本明細書に開示されて

いるDNA配列を含むベクターにより形質転換またはトランスフェションされた細胞である。形質転換宿主細胞は、普通はケラチナーゼを発現するが、ケラチナーゼDNAをクローニングまたは増幅する目的で形質転換された宿主細胞は、ケラチナーゼを発現する必要はない。適切な宿主細胞には、本技術に精通する者にとって公知の原核生物宿主細胞のような宿主細胞が含まれる。

原核生物宿主細胞には、大腸菌(E.coli)またはバチルス等のグラム陰性またはグラム陽性菌が含まれる。より高等な真核細胞には、下記の哺乳動物由来の確立された細胞系が含まれる。宿主細胞の例は、E.coli W3110 (ATCC 27,325) 、 E.coli B、E.coli X1776 (ATCC 31,537) 、E.coli 294 (ATCC 31,446) 等である。広範にわたる適切な原核細胞と微生物のベクターが利用可能である。E.coliは典型的にpBR322を利用して形質転換される。組換え微生物発現ベクターにおいて最も多く利用されるプロモーターには、 β -ラクタマーゼ(ペニシリナーゼ)およびラクトースプロモーター系(Chang et al., Nature 275:615 (1978) ;およびGoeddel et al., Nature 281:544 (1979))、トリプトファン(trp)プロモーター系(Goeddel et al., Nucleic Acids Res. 8:4057 (1980) およびヨーロッパ特許公報第36,776号)およびtacプロモーター(H.De Boer et al., Proc. Natl. Acad. Sci. USA 80:21 (1983))含まれる。(原核宿主の発現に関する)プロモーターとシャインーダルガノ(Shine-Dalgarno)配列は、ケラチナーゼを

コードしているDNAに操作可能なように結合される。すなわち、これらは、DNAからのケラチナーゼメッセンジャーRNAの転写を促進するように配置されている。

培養酵母等の真核微生物も、本明細書に開示されている単離DNAを持つベクターにより形質転換できる。例えば、米国特許第4,745,057号を参照。パン酵母(Saccharomyces cerevisiae)は、より下等な真核宿主微生物の中では最も多く利用されるが、多くの他の菌株も一般的に利用可能である。酵母ベクターには、2ミクロンの酵母プラスミドからの複製起点または自律複製配列(ARS)、プロモーター、

本明細書に記載されているケラチナーゼをコードしているDNA、ポリアデニル化のための配列、および転写終結のための配列、および選択遺伝子を含む。プラスミドの例としてYRp7がある(Stinchcomb et al., Nature 282:39 (1979) ; King sman et al., Gene 7:141 (1979) 、Tschemper et al., Gene 10:157 (1980))

酵母ベクター内の適切なプロモーター配列には、メタロチオネインのプロモーター、3-ホスホグリセレートキナーゼ (Hitzemen et al., J. Biol. Chem. 255: 2073 (1980) またはその他の解糖酵素 (Hess et al., J. Adv. Enzyme Reg. 7:1 49 (1968) およびHolland et al., Biochemistry 17:4900 (1978)) が含まれる。酵母での発現に利用される適切なベクターとプロモーターは、R. Hitzeman et al., ヨーロッパ特許公報第73,657号に詳細に記述されている。

C. ケラチナーゼ酵素の調製および利用法

上記のように、ケラチナーゼ酵素は、コードされているケラチナーゼを発現させることが可能な条件で上記のように宿主細胞を培養し、発現されたケラチナーゼを収集することによって、作製できる。宿主細胞は、細胞が増殖する条件で培養され、次いでコードされたケラチナーゼの発現を誘発する条件で培養できる。あるいは、細胞はコードされたケラチナーゼの発現と増殖とを同時に誘発できる。ケラチナーゼは適切な分泌リーダー配列に融合できる。あるいは培養培地内で発現させ、培地から収集できる。あるいはケラチナーゼを細胞内で発現させ、次いで細胞を溶解し、細胞溶解物からケラチナーゼを収集できる。一般に、培養し

てトランスジェニックしたタンパク質を発現させる適切な技術は全て利用でき、 これは本技術に精通する者にとって公知である。

調製されたケラチナーゼ酵素は、ケラチンに富む材料の分解処理工程に有用である。具体的な加水分解処理工程は、Shih et al. の米国特許第5,063,161号および第4,959,311号に記載されており、これらは引用することによってすべて本明細書に組み込まれるものとする。前記のShih et al. の特許は、ケラチナーゼ酵素

を含む発酵培地を開示している。従って、本発明のケラチナーゼ酵素は発酵培地 の調製に有用である。

調製されたケラチナーゼ酵素は、羽毛の加水分解生成物の生産にも利用できる。羽毛の加水分解生成物には幾つか利用法がある。例えば、加水分解された羽毛は、動物飼料の成分として利用できる。同様に、調製されたケラチナーゼ酵素そのものを動物飼料調製品に組み込むことができる。Shih et al. の米国特許第5,186,961号には、ケラチナーゼ酵素を含む動物試料の適切な調製法が開示されている。Shih et al. の米国特許第5,186,961号は、引用することによってすべて本明細書に組み込まれる。

調製されたケラチナーゼ酵素は、背景技術において上述されているように、羽 毛生成物からのアミノ酸生成にも有用である。

本発明は、以下の限定することを意図したものではない具体例に詳細に説明されている。具体例は説明だけを目的としており、発明の範囲を限定するものではない。

例1

PCR-ウォーキングによるバチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniform is) PWD-1からのケラチナーゼ遺伝子の単離と配列決定

本技術に精通する者にとって公知の技術に従って、臭化シアンを用いてケラチナーゼ酵素を切断する。その後、個々に対を成す一連のランダムプライマーと共に、N末端アミノ酸配列に対応する5'DNA (N10) 配列を固定プライマーとして使用し、ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) を行う。N10の下流に位置する25-merオリゴ

ヌクレオチドプローブとのハイブリッド形成により、N10とランダムプライマーの1つによって増幅された683bpのPCR生成物が得られ、これはケラチナーゼ遺伝子を含む部分として同定される。遺伝子の3'末端部分も、+548の位置に設定され、ランダムプライマーと対をなす第二の固定プライマー(I10)を用いて、同じ方法

で増幅、配列決定される。上流の配列分析も同様の方法で実施した。575bpの上流領域は、ランダムプライマーと対を成すアンチセンス10-mer固定プライマー(R10)を用いて、PCRにより増幅される。バチルス・リチェニフォルミス(Bacill us Licheniformis)のケラチナーゼ遺伝子と調節要素を含む完全な1,457bpの配列は、PCR産物の組み合わせにより決定される。

図1に示すように、同定された遺伝子は、バチルス・リチェニフォルミス (Ba cillus Licheniformis) NCIB 6816のズブチリシンカールスベルグ遺伝子との類似性が高い。変更部分は、同定されたバチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniformis) のケラチン分解プロテアーゼの対応するアミノ酸配列の上に太字でアミノ酸のカールスベルグ遺伝子の違いとして明らかにされている。

配列表

(1) 一般的情報:

シー, ジェイソン・シー・エイチ リン, シャン ミラー, エリック・エス (i) 出願人:

- (ii) 発明の名称: バチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheni formis) PWD-1のケラチナーゼをコードしているDNA
- (iii) 配列の数:
- (iv) 連絡先:
 - (A) あて先: Kenneth D. Sibley (B) 街: Post Office Drawer 34009

 - (C) 市: シャーロット
 - (D) 州: ノース・キャロライナ (E) 国: アメリカ合衆国

 - (F) 郵便番号: 28234
- (v) コンピュータ読取可能な形式
 - (A) 媒体: フロッピーディスク

 - (B) コンピュータ: IBM PC 互換器 (C) オペレーティングシステム: PC-DOS/MS-DOS
 - (D) ソフトウェア: PatentIn Release #1.0, Version #1.25
- (vi) 本出願データ:
 - (A) 出願番号: US 08/250.028
 - (B) 出願日: 1994年5月27日
 - (C) 分類:
- (viii) 代理人の情報:
 - Sibley, Kenneth D. (A) 氏名:
 - (B) 登録番号: 31,665 5051-260 (C) 参照番号:
 - (ix) 電子通信の情報:
 - (A) 電話番号: (919)420-2200 (B) ファクシミリ番号: (919)881-3175
- (2) 配列番号:1
 - (i) 配列の特徴:
 - (A) 配列の長さ: (B) 配列の型: 1457塩基対
 - 核酸
 - (C) 鎖の数: 一本鎖
 - (D) トポロジー: 直鎖状
 - (ii) 配列の種類: DNA (genomic)
- (iii) ハイポセティカル配列: NO
- (iv) アンチセンス: NO

(vi) 起源:
(A) 生物名: パチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniformis)
(B) 株名: PWD-1

(ix) 配列の特徴: (A) 存在を表す記号: CDS (B) 存在位置: 215..1354

(xi) 配列: 配列番号1

60	CTAAAACAGT	GAACATTTTT	CTTTCGAACT	TCTATTCATA	GCTGAAGCGG	CTCCTGCCAA
120	CATATAATTC	ATAGGCCTAC	CTCCAAAAAA	TAAATTGGCC	CAAAAAATTT	TNNTAATAAC
180	CCTTCTATTT	TATTATTAT	ATTGGAATAG	TAACAGAATA	TATAATAAAT	АТТТТТС
240	GTTTTTGGCT	AGGAAAAAGA	AGTAATGATG	GAGGAGAGTG	GAATAAAGAG	AAATTATTCT
300	CCGCTTCTGC	TTCAGCGATT	CACGATGGCA	TGCTCGTGTT	ACGGCCTTCA	TGGGATGCTG
360	CAGGAGTGAA	GGATTTAAGT	TTATATTGTC	TTGAAAAGGA	GCGAAAAATG	TGCTCAACCG
420	ACAAGCAGTT	GGAAAAGTGG	AGAGAGCGGC	ACGTCATCAA	GTCAAAAAGG	AACCGCATCT
480	AAGTCAAAAA	GCGCTTAAGG	AGACAAAGAA	AAGCGAAGCT	AACGCAGCAA	TAGAATCATC
540	CGCAAACCGT	CATGCCTTGG	TCATGTGGCC	TGGAAGAGGA	GTCGCTTATG	TGATCCGGAT
600	TTAAGGGAGC	GCTCAAGGCT	CAAAGTGCAG	TTAAAGCGGA	ATTCCTCTCA	TCCTTACGGC
660	ACTTGAACGT	TCTCATCCGG	AATCCAAGCT	TGGATACAGG	GTAGCCGTCC	GAATGTAAAA
720	ACGGACACGG	ACCGACGGCA	AGCTTATAAC	TGGCTGGCGA	GCAAGCTTTG	AGTCGGCGGA
780	TAGGCGTTGC	ACGGGTGTAT	TGACAATACA	TAGCTGCGCT	GCCGGTACAG	CACACATGTT
840	GATCATACAG	AGCGGAAGCG	ACTGAATTCA	CGGTTAAAGT	TCCTTGTACG	GCCAAGCGTA
900	TCAATATGAG	ATGGATGTTA	AACAAACGGC	AGTGGGCGAC	AGCGGAATCG	CGGCATTGTA
960	CATATGCAAG	GTCGACAATG	GAAACAGGCA	CGACAGCGAT	GCATCAGGCT	CCTTGGGGGA
1020	CGAATACAAT	TCAGGAAACA	CAGCGGATCT	CAGCAGGGAA	GTTGTAGCTG	AGGGGTTGTC
1080	CTAACAGCAA	GCGGTAGACT	CGCTGTTGGT	ATTCTGTCAT	GCGAAATACG	TGGCTATCCT
1140	GCGCAGGCGT	ATGGCTCCTG	GCTTGAAGTC	TGGGAGCAGA	TTTTCCAGTG	CAGAGCTTCA
1200	TGGTTTCTCC	GGAACGTCAA	AACATTGAAC	ACACTTATGC	TACCCAACGA	ATACAGCACT
1260	CAGCTTCACA	CCGAACCTTT	GTCAAAACAT	CTTTGATCTT	GGAGCAGCAG	TCATGTAGCG
1320	ACTATGGGAA	AGCTCCTTCT	TTATTTGGGA	GCACGGCGAC	CGTCTCTCCA	AGTCCGCAAC
1380	GCATATAGAA	CTAACAAATA	ATAACATATT	CTGCCGCTCA	AATGTCGAAG	AGGTCTGATC

AAAGCTAGTG TTTTTAGCAC TAGCTTTTTC TTCATTCTGA TGAAGGTTGT CCAATATTTT 1440
GAATCCGTTC CATGATC 1457

(2) 配列番号: 2

(i) 配列の特徴:

(A) 配列の長さ: 379アミノ酸(B) 配列の型: アミノ酸(D) トポロジー: 直鎖状

(ii) 配列の種類: タンパク質

(iii) ハイポセティカル配列: NO

(vi) 起源:

(A) 生物名: パチルス・リチェニフォルミス (Bacillus Licheniformis)

(B) 株名: PWD-1

(xi) 配列: 配列番号2

Met Met Arg Lys Lys Ser Phe Trp Leu Gly Met Leu Thr Ala Phe Met $1 \hspace{1cm} 5 \hspace{1cm} 10 \hspace{1cm} 15$

Leu Val Phe Thr Met Ala Phe Ser Asp Ser Ala Ser Ala Ala Gln Pro 20 25 30

Ala Lys Asn Val Glu Lys Asp Tyr Ile Val Gly Phe Lys Ser Gly Val 35 40 45

Lys Thr Ala Ser Val Lys Lys Asp Val Ile Lys Glu Ser Gly Gly Lys 50 55 60

Val Asp Lys Gln Phe Arg Ile Ile Asn Ala Ala Lys Ala Lys Leu Asp 65 70 75

Lys Glu Ala Leu Lys Glu Val Lys Asn Asp Pro Asp Val Ala Tyr Val 85 90 95

Glu Glu Asp His Val Ala His Ala Leu Ala Gln Thr Val Pro Tyr Gly 100 105 110

Ile Pro Leu Ile Lys Ala Asp Lys Val Gln Ala Gln Gly Phe Lys Gly 115 120 125

Ala Asn Val Lys Val Ala Val Leu Asp Thr Gly Ile Gln Ala Ser His 130 135 140

Pro Asp Leu Asn Val Val Gly Gly Ala Ser Phe Val Ala Gly Glu Ala 145 150 160

Tyr Asn Thr Asp Gly Asn Gly His Gly Thr His Val Ala Gly Thr Val 165 170 175 Ala Ala Leu Asp Asn Thr Thr Gly Val Leu Gly Val Ala Pro Ser Val 180 185 190

Ser Leu Tyr Ala Val Lys Val Leu Asn Ser Ser Gly Ser Gly Ser Tyr 195 200 205

Ser Gly Ile Val Ser Gly Ile Glu Trp Ala Thr Thr Asn Gly Met Asp 210 215 220

Val Ile Asn Met Ser Leu Gly Gly Ala Ser Gly Ser Thr Ala Met Lys 235 240

Gln Ala Val Asp Asn Ala Tyr Ala Arg Gly Val Val Val Val Ala Ala 245 250 255

Ala Gly Asn Ser Gly Ser Ser Gly Asn Thr Asn Thr Ile Gly Tyr Pro 260 265 270

Ala Lys Tyr Asp Ser Val Ile Ala Val Gly Ala Val Asp Ser Asn Ser 275 280 285

Asn Arg Ala Ser Phe Ser Ser Val Gly Ala Glu Leu Glu Val Met Ala 290 295 300

Pro Gly Ala Gly Val Tyr Ser Thr Tyr Pro Thr Asn Thr Tyr Ala Thr 305 310 315 Thr 320

Leu Asn Gly Thr Ser Met Val Ser Pro His Val Ala Gly Ala Ala Ala 325 330 335

Leu Ile Leu Ser Lys His Pro Asn Leu Ser Ala Ser Gln Val Arg Asn 340 345 350

Arg Leu Ser Ser Thr Ala Thr Tyr Leu Gly Ser Ser Phe Tyr Tyr Gly 355 360 365

Lys Gly Leu Ile Asn Val Glu Ala Ala Ala Gln 370 375 【図1A】

180 PWD-1 CICCIGCCAAGCIGAAGCGGICIAIICAIACIIICGAACIGAACAIIIIICIAAAACAGIINNIAAIAACCAAAAAAIIIIAAAIIGGCC

Preproprotein

M M R K K S F W L G M L T A F M L V F
AAAITAIICIGAATAAAG<u>AGGAGGAG</u>AGIGAGGAAGAAGAAAAAGAGIIIIIGGCIIGGGAIGCIGACGGCCIICAIGCICGIGII 270

T M A F S D S A S A A Q P A K N V E K D Y I V G F K S G V K CACGATGGCATTCAGCGATTCCGCTTCTGCTGCTGACGGCGAAAAATGTTGAAAAGGATTATATTGTCGGATTTAAGTCAGGAGTGAA 360

450

D K E A L K E V K N D P D V A Y V E E D H V A H A L A Q T V AGACAAAGAAGGGGTTAAGGAAATGATCCGGATGTCGCTTATGTGGAAGGAGGATCATGTGGCAAACGT

PYGIPLINK ADKVQAQGCTTTAAGGGAGCGAATGTAAAGTGCGAATGTAAAAGTAGCGTCCTGGATACAGG 630

810 T H V A G T V A A L D N T T G V L G V E P S V S L Y A V K V CACACATGTTGCCGGTACAGTAGCGTTGACGGGTTAAAGT

FIG. 1A.

【図1B】

,,

【手続補正書】特許法第184条の8 【提出日】1996年5月20日 【補正内容】

請求の範囲(補正)

- 1. 配列番号1のDNA配列を持ち、ケラチナーゼをコードしている単離DNA分子
- 2. ベクターDNAと、配列番号2のアミノ酸配列を持つケラチナーゼ酵素をコードしている上記請求項1記載の単離DNAとを含む組換えDNA分子。
- 3. 請求項2記載の組換えDNAを含み、配列番号2のアミノ酸配列を持つケラチナーゼ酵素を発現できる宿主細胞。
- 4. コードされているケラチナーゼを発現させることが可能な条件下で請求項 3記載の宿主細胞を培養して細胞培養物を得る工程と、上記細胞培養物から上記 ケラチナーゼ酵素を収集する工程とを含むケラチナーゼ酵素の製造方法。

【国際調査報告】

	INTERNATIONAL SEARCH	REPORT		
			PCT/US 95	ication No
			PC1/03 93	703033
IPC 6	FIGATION OF SUBJECT MATTER C12N15/57 C12N9/56			
	D International Patent Classification (IPC) or to both national class SEARCHED	sification and IPC		
	ocumentation searched (classification system followed by classific	ation symbols)		
IPC 6	C12N			
Documentat	son scarched other than numinous documentation to the estant tha	t such documents are in	cluded in the fields i	earched
Electronic d	eta base committed during the informational search (name of data B	ake and, where practical	, scarch terms used)	
C. DOCUM	IGNTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		·	
Category *	Citation of document, with indication, where appropriate, of the	relevant passages		Relevant to claim No.
x	WO-A-89 09278 (NORTH CAROLINA ST UNIVERSITY) 5 October 1989 see page 8, line 24 - page 11, 1		!	1-10
	See page o, Time 24 - page 11, 1	7 II.C 33	•	
A	POULTRY SCIENCE, vol. 70, no. 1, 1991 page 74 XIANG LIN ET AL. 'Isolation of feather-degrading keratinase fro licheniformis PWD-1. ' see the whole document	a m Bacillus		1-10
		-/		
X Furd	ner socuments are listed in the continuation of box C.	X Patent family	members are listed	in annot.
'A' docum	regories of eited documents: mt defining the general state of the art which is not tred to be of particular relevance	T later document property date a cred to understa	ind not in conflict W	ernational filing date its the application but heury underlying the
"E" earlier o	document but published on or after the international	"X" document of part cannot be comid involve an inven	erred novel or cappio	cument is taken alone
"O" decum	n or other special reason (as specified) ent referring to an oral disclosure, use, exhibition or means	carnot be consid	lered to involve an in	number such when the nort other such docu- ties to a person skilled
LATER TO	ent published proor to the international filing date but san the priority date claimed	'&' document memb		
	schial completion of the international search September 1995	Date of mailing o	2 0. 09.	
	mailing address of the ISA European Patent Office, P.B. 581 8 Patentiaan 2 NL - 2230 HV Rijswejk	Authorized office	<u>, </u>	
_	Tel. (+31-70) 340-2040, Th. 31 651 epo nl. Fax (+31-70) 340-3016	Monter	o Lopez, B	

Form PCT/ISA/210 (second eleat) (July 1992)

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Inter nal Application No PCT/US 95/05635

		PCT/US 95/05635			
C (Continu	ONDITION DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT				
Catagory *	Clusion of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.			
·, x	APPLIED AND ENVIRONMENTAL MICROBIOLOGY, vol. 61, no. 4, April 1995 pages 1469-1474, XIANG LIN ET AL. 'Nucleotide sequence and expression of kerA, the gene encoding a keratinolytic protease of Bacillus licheniformis PWD-1.' see abstract see page 1472, right column, paragraph 1 page 1473, right column, paragraph 2; figure 9	1-10			
	-				

Form PCT/ISA/210 (meticustics of Mound short) (July 1992)

INTERNATIONAL SEARC	H REPORT Inter .	nel Application No
	PCT/I	US 95/05635
	The section	Dublication

	INTERNATION.		PCT/US	95/05635
Patent document cited in search report	Patent document Publication date		Patent family stember(s)	
WO-A-8909278	05-10-89	US-A- JP-T- US-A- US-A-	4959311 3504676 5063161 5171682	25-09-90 17-10-91 05-11-91 15-12-92
				-
			م	
			•	

Form PCT/ISA/210 (petent family annex) (July 1992)

フロントページの続き

(81)指定国 EP(AT, BE, CH, DE, DK, ES, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE), OA(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, ML, MR, NE, SN, TD, TG), AP(KE, MW, SD, SZ, UG), AM, AT, AU, BB, BG, BR, BY, CA, CH, CN, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, GB, GE, HU, IS, JP, KE, KG, KP, KR, KZ, LK, LR, LT, LU, LV, MD, MG, MN, MW, MX, NO, NZ, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, TJ, TM, TT, UA, US, UZ, VN

(72)発明者 リン,シャン

アメリカ合衆国、27607 ノース・キャロ ライナ、ローリー、イースト・サウス・キ ング・ヴィレッジ ジー18

(72)発明者 ミラー, エリック・エス アメリカ合衆国、27606 ノース・キャロ ライナ、ローリー、ディアヴュー・ドライ ヴ 6512

【要約の続き】